

秋の土作りを実践しましょう

～次年度以降の良食味米・高品質米生産の実践を～

良食味・高品質米を安定的に生産するためには稲が必要とする養分や水分をバランスよく供給できる緩衝力の高い土壌を作る事が非常に重要です。

また、土作りを行う事は異常気象条件下（冷害・高温・干ばつ）においても、稲体の活力維持や登熟向上が期待でき、良食味・高品質生産につなげることができます。

平成28年産米生産に向けて、土作りを行いましょ

稲わらの『秋すき込みは浅うちで』

分解を行う土壌微生物への酸素供給、春先の土壌の乾燥促進などの事から5～10cmの浅うちにしましょう。また、十分に分解させるために収穫後地温が高いうちに（10月20日頃まで）実施しましょう。

春のすき込みは、ワキの発生を助長し、根腐れや初期生育の不良などの恐れがあるため、秋すき込みを心がけましょう。

堆肥、土作り肥料の散布

◎堆肥散布

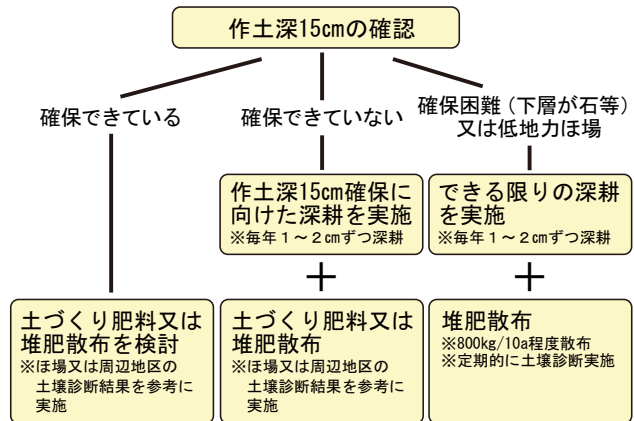
・10a当たり400～800kgを原則とし、秋期に散布しましょう。

◎有機センター堆肥の価格・散布料金

- ・15kg袋：420円（JA営農センターで販売）
- ・フレコンパック（約400kg）：2,650円
- ・散布料金：2,500円/10a

◎問い合わせ先

・魚沼市有機センター（☎794-6688）



堆肥、土作り肥料の散布を

土作り肥料散布

近年の土壌分析結果では、けい酸や有利酸化鉄が不足傾向にあります。

下記の例を参考に秋期・春期に土作り肥料を散布しましょう。

『散布例 ①』 土壌分析等で鉄が不足または、秋落ちする圃場には
魚沼ロマンアイアンスター 60～80kg/10a
（りん酸・けい酸・苦土・鉄・腐食酸を含む総合的な土作り肥料）

『散布例 ②』 魚沼地域専用の低コスト肥料
魚沼ロマンソイルキーパー 40～60kg/10a
（けい酸を中心にりん酸・苦土・加里・腐食酸を含む土作り肥料）



圃場の土壌状態を確認する事は大切です。土壌分析を行いましょ。

JA北魚沼では土壌分析を10月末まで受け付けています。

JAの土壌分析調査には費用は一切かかりません。